

## 第 17 回国立国会図書館契約監視委員会議事概要

開催日及び場所	平成 28 年 5 月 31 日（火）午後 2 時～午後 3 時 55 分 国立国会図書館総務課第二会議室	
委員長及び委員	委員長 本田 実（城西国際大学経営情報学部教授） 委員 富山 正次（公認会計士） 委員 山本 清（東京大学大学院教育学研究科教授）	
審議対象契約期間	平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日	
指名停止の運用状況	2 件（3 社） ・独占禁止法違反 2 社（平成 27 年 11 月 24 日～平成 28 年 1 月 6 日等） ・建設業法違反 1 社（平成 28 年 1 月 26 日～2 月 25 日）	
抽出事案（件）	5	（備考）事案総数 180 件
競争入札（物品役務）（5 件）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：パッケージ形空気調和機等改修工事</li> <li>・契約相手方：日本空調サービス株式会社</li> <li>・契約金額：37,476,000 円</li> <li>・契約締結日：平成 27 年 9 月 14 日</li> <li>・担当部局：総務部会計課</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：本庁舎及び構内敷地の警備</li> <li>・契約相手方：株式会社コアズ</li> <li>・契約金額：89,100,000 円</li> <li>・契約締結日：平成 27 年 4 月 1 日</li> <li>・担当部局：総務部会計課</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：国立国会図書館関西館図書館資料の出納等作業 1 式</li> <li>・契約相手方：株式会社キャリアパワー</li> <li>・契約金額：90,143,642 円</li> <li>・契約締結日：平成 27 年 4 月 1 日</li> <li>・担当部局：関西館総務課</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：NDL デジタルアーカイブシステム ウェブアーカイブシステムの保守 1 式</li> <li>・契約相手方：富士通株式会社 京都支社</li> <li>・契約金額：34,369,920 円</li> <li>・契約締結日：平成 27 年 4 月 1 日</li> <li>・担当部局：関西館総務課</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：国内刊行図書及び国内刊行雑誌（官庁出版物等）の原資料からの電子化 1 式</li> <li>・契約相手方：株式会社紀伊國屋書店</li> <li>・契約金額：1 コマ：58 円等 単価契約：31,390,200 円</li> <li>・契約締結日：平成 27 年 9 月 16 日</li> <li>・担当部局：総務部会計課</li> </ul>
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告	なし	
抽出委員の選出	富山委員を次回の抽出委員に指定した。	

## 別紙

意見・質問	回答等
<p><b>【パッケージ形空調機等改修工事】</b></p> <p>入札予定価格を積算する際の査定率は妥当か。現行の積算方式に必ずしもこだわる必要はないのではないか。</p>	<p>一般的に査定率は評価が難しい面がある。次回の予定価格の算定に向け、参考意見として承りたい。</p>
<p><b>【本庁舎及び構内敷地の警備】</b></p> <p>前年度と同一の役務であるにも関わらず、入札予定価格が前年度の請負価格より高いのは何故か。積算方法に工夫が必要ではないか。</p>	<p>労務単価が前年度より上昇した影響が大きい。いずれにせよ、適切な予定価格の設定方法を検討していきたい。</p>
<p><b>【国立国会図書館関西館図書館資料の出納等作業 1 式】</b></p> <p>競争参加資格の等級の採用について、目安を示す必要があるのではないか。</p>	<p>現在、競争参加資格の等級は、ケースバイケースで判断している状況。参考意見として承りたい。</p>
<p><b>【NDL デジタルアーカイブシステム ウェブアーカイブシステムの保守 1 式】</b></p> <p>競争入札を行う際は、1 者入札とならないよう、より多くの業者が参加できる仕組みを検討し、競争性を高めることが必要ではないか。</p>	<p>システムの詳細設計図を応札希望者に閲覧させるなど、参加者を増やすべく努力してきたが、1 者入札が継続しているのも事実。方策を検討したい。</p>
<p><b>【国内刊行図書及び国内刊行雑誌（官庁出版物等）の原資料からの電子化 1 式】</b></p> <p>契約単価が図書及び雑誌の間で差が生じているのは何故か。</p>	<p>1 コマあたりの入力文字数の違いによる。雑誌は目次の文字入力数が多い。</p>
<p><b>【その他】</b></p> <p>契約上、所有権や著作権などが NDL に移転する前に、既に「かし担保責任期間」が発生している案件がみられる。今後の課題である。</p>	